

2024年6月30日（日）第二礼拝「長血の女の信仰」マルコ5章25～34節

十二年間長血を患っていた女がイエス様の着物を触って癒されました。

第一番目、彼女の信仰は「聞く」ことからでした。「彼女は、イエスのことを耳にして…」（本文27節）信仰は聞くことから始まります。聞くことはキリストについての御言葉です。「我が子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。」（箴言4：20～21）御言葉をよく聞き、耳を傾け、御言葉から目を離さず、それを心のうちに保つこと、つまり、主の御言葉を自分の心のうちで思い描くことが大切です。「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて」（Iヨハネ1:1）イエス様がいばらの冠をかぶらされ、ムチで打たれ、手足を釘で打たれ十字架にかけられる様子をじっと見つめ、そのムチの音や釘を打つ音を聞き、それを私たちの心に深く刻む時、イエス様が私たちの罪を洗い、病を癒し、呪いを背負い、地獄の苦しみを全て受けてくださったのだと悟るのです。「彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。」（イザヤ53：5）

第二番目、ある時、信仰が湧き上がります。「見いだす者には、それはいのちとなり、その全身を健やかにする。」（箴言4：22）私たちが見いだすまで、御言葉を聞き続け、口ずさむことです。「この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならぬ。…強くあれ、雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」（ヨシュア1：8～9）御言葉を口ずさみ続ける時、恐れは退き、強められ、平安が与えられます。これが信仰が湧き上がるということなのです。長血の女は「イエス様の着物にさわることでもできれば、きっと直る」と信じていました。これが見いだした者の信仰です。

第三番目、あなたの信仰があなたを直したのです。長血の女が癒されたのはイエス様の信仰ではなく、彼女の信仰でした。イエス様は群衆が押し迫る中、力が外に出て行ったことに気づきましたが、ご自分に触れた人が誰だか分かりませんでした。この時イエス様の意志とは関係なく、彼女の信仰が癒しを引き出しました。イエス様は十字架で癒しを完了されました。この癒しを引き寄せるのは私たちの信仰によります。私たちの家には電気が通っていますが、電気をつけるにはスイッチを押さなければいけません。電気会社の電気が家の中に通っているように、私たちのうちには聖霊様が住んでおられます。聖霊様は知恵であり、知識であり、預言であり、異言であられます。私たちのうちには既に異言や預言があることを信じて語る時に、私たちの口から異言や預言が出てくるのです。モーセは神様から紅海の前で杖を伸ばすように言われました。奇跡は主がなされますが、杖を伸ばすのは私たちです。私たちが癒しや奇跡を宣言していく時に、その宣言通りに神様がなされます。アーメン！